

土砂災害

土砂災害(特別)警戒区域に指定された区域は台風や集中豪雨、地震によって大きな被害を受けることが考えられます。梅雨や台風の時期には十分な警戒が必要です。また、**雨が止んでからも発生**することがありますので、前兆が現れた場合は、安全な場所へ避難しましょう。

土砂災害について

土砂災害の種類とその前兆現象

土砂災害が発生するおそれのある区域として、土砂災害(特別)警戒区域を県が指定しています。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。
危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

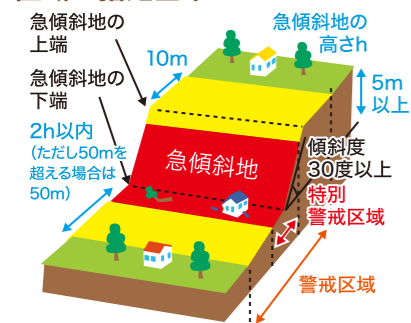
がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に**著しい危害**が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。
特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

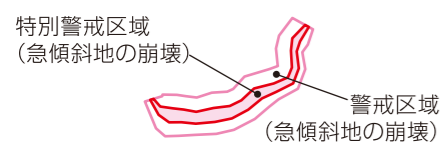
斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示



前兆現象

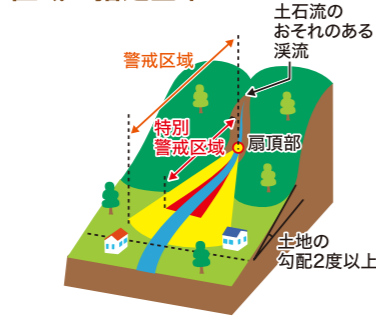
- がけに割れ目が見える。
- がけから水が噴出する。
- がけから小石がバラバラ落ちてくる。

土石流

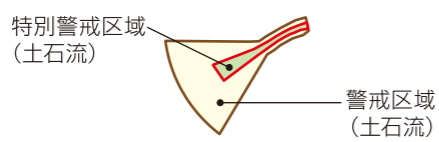
山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示



前兆現象

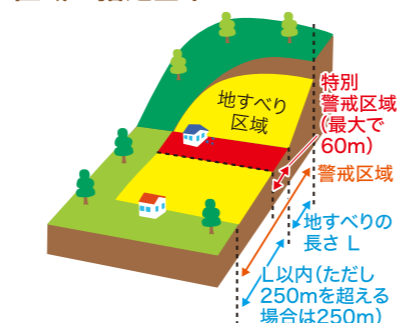
- 山鳴りがする。
- 川の流が濁り、流木が混ざりはじめる。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

地すべり

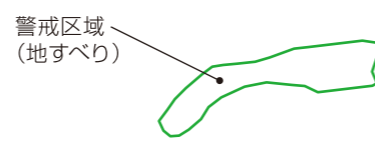
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示



前兆現象

- 地面にひび割れができる。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面から水が噴き出す。

上記の様な、現象を見たら…、聞いたら…

町が発令する避難情報に関わらず、直ちに地域の方は安全な場所に避難して下さい。特に、避難行動要支援者には配慮が必要です。避難する際には、事前に役場もしくは区長の方までご連絡ください。

土砂災害に関する情報入手

- 佐賀地方気象台 …… <https://www.data.jma.go.jp/saga/>
- 佐賀県「防災・減災さが」 …… <https://www.pref.saga.lg.jp/bousai/>
- 土砂災害防止法に基づく特別警戒区域の指定について …… <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00314710/index.html>

土砂キキクル

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/>



土砂災害の危険度の高まっている地域を1km四方(メッシュ)の領域ごとに5段階で色分け表示しています。避難にかかる時間等を考慮して、2時間先までの予測値を用いており(10分ごとに更新)、大雨警報(土砂災害)、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



※ここに示す危険度はイメージです。

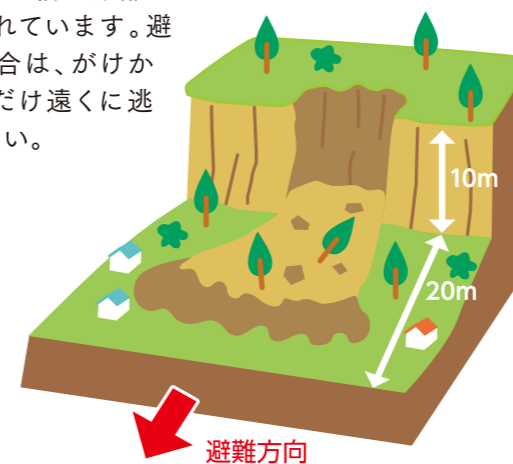
色が持つ意味	住民等の行動の例	避難情報*	相当する警戒レベル
極めて危険	《命に危険が及ぶ土砂災害が すでに発生 しているにもかかわらず 極めて危険な状況 。》この段階の 前に避難を完了 しておく。	—	—
非常に危険	速やかに土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ避難する。	避難指示	4相当
警戒	土砂災害警戒区域等の外の 少しでも安全な場所へ避難する 。 高齢者等は 速やかに避難する 。	高齢者等避難	3相当
注意	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	2相当
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—

※内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報

避難のポイント

●がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところをはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



●他の危険区域を通らない

避難する際は、土砂災害警戒区域等(イエローゾーン・レッドゾーン)をなるべく通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

●やむをえず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。

●土石流のおそれがある場合

渓流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角の方向に逃げましょう。ただし、流れが曲がる箇所では、曲がりの外側へ向かってかなり高い位置まで土石流がかけ上がるので、内側の方向へ逃げましょう。



●雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨が止んでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。